

見本

骨髄・末梢血幹細胞 ドナー手帳

一般社団法人 日本造血細胞移植学会
公益財団法人 日本骨髄バンク

目次 1/2

ドナーの方へ	3
1. この手帳の目的と使い方	4
2. ドナー(あなた)の情報	5
3. 連絡方法(血縁ドナーの方)	6
(非血縁ドナーの方)	7
4. 採取・移植施設以外の医療関係者の方へ	8～9
5. 骨髄提供スケジュール表	10
6. 末梢血幹細胞提供スケジュール表	11
7. 骨髄・末梢血幹細胞採取前にお願いしたいこと ...	12～16
8. 骨髄提供について	
(1) 自己血採血について	17～19
① 採血前の注意	
② 採血当日の注意	
③ 採血後の注意	
(2) 骨髄採取の方法	20
(3) 骨髄採取(麻酔)により起こり得る合併症	21

目次 2/2

(4) 骨髄採取後について	22~23
① 骨髄採取後の注意	
② 骨髄提供後について	
9. 末梢血幹細胞提供について	
(1) 末梢血幹細胞提供の方法	24~26
(2) 顆粒球コロニー刺激因子(G-CSF)の注射について	27~28
① G-CSFの注射により起こり得る副作用について	
② 通院でのG-CSFの注射実施期間中の注意	
(3) 末梢血幹細胞採取について	29
① 採取前の注意	
② 採取中に起こり得る症状	
(4) 末梢血幹細胞採取後について	30~33
① 採取後間もない時期に起こり得る症状	
② 末梢血幹細胞採取後間もない時期の注意	
③ 末梢血幹細胞採取後1ヵ月間の注意	
④ 末梢血幹細胞提供後について	
10. 患者さんへのお手紙について(非血縁ドナーの方) ...	34
11. ドナー補償のための団体傷害保険について	35~37
メモ	38~40

ドナーの方へ

骨髄・末梢血幹細胞移植は、治癒を望める治療法として年々増加しており、薬剤等による治療法では根治し難い血液の難病等の患者さんにとってなくてはならないものとなっています。また、この治療法は、「骨髄・末梢血幹細胞を善意で提供する方(ドナー)」が存在してはじめて成立するという点が、ほかの治療法にはみられない最大の特徴です。

ドナーの骨髄・末梢血幹細胞提供のご意思そのものが、闘病中の患者さんにとって強い支えになっています。

日本造血細胞移植学会および日本骨髄バンクは、ドナーの方の善意を活かし、難病に苦しむ患者さんをひとりでも多く救命することができるよう、一層の努力をしてまいります。

一般社団法人 日本造血細胞移植学会
公益財団法人 日本骨髄バンク

1. この手帳の目的と使い方

- ◆ この手帳は、骨髄または末梢血幹細胞の提供が決定した方にお渡ししています。
- ◆ この手帳を受け取られましたら、まず全体を一通りご覧ください。その後、連絡先やスケジュールなどに記入してください。
- ◆ 骨髄または末梢血幹細胞提供に関してご注意いただきたいことが記載されていますので、よくお読みください。
- ◆ 提供の記録として保管し、ご自身の健康管理にお役立てください。
- ◆ 医療機関の受診時や健康診断などを受けるときには、この手帳を窓口で提出したり、医師などにお見せいただき、骨髄または末梢血幹細胞提供者であることをお伝えください。
- ◆ この手帳には、ご自身の健康に関する重要な内容が記載されていますので、紛失しないよう十分にご注意ください。提供前後の健康診断結果等をお持ちの場合は、一緒に保管してください。

2. ドナー(あなた)の情報

氏名 :	_____
住所 :	_____
血液型 :	型 Rh
過去の病歴 :	_____
アレルギー有無 :	無 有 ()
電話番号 :	()
携帯番号 :	()

緊急連絡先	
氏名 :	(続柄:)
住所 :	_____
電話番号 :	()
携帯番号 :	()

あなたご自身でご記入ください。

3. 連絡方法

血縁ドナー（親族にご提供）の方

①あなたから採取施設への連絡について

採取前後で健康上のことなど普段と違うことがありましたら、下記の採取担当医師までご連絡ください。

あなたご自身でご記入ください。

●採取施設情報

施設名：

住所：

電話番号：

●担当医師情報

担当医師名：

所属：

連絡先：

②採取施設からあなたへの連絡について

患者さん側の都合などで、至急ご連絡しなければならない場合もあります。いつでも連絡がとれる方法をご検討いただき、採取担当医師にお知らせください。



非血縁ドナー(骨髄バンクを介してご提供)の方

①あなたからの地区事務局または採取施設への連絡について
採取前後で健康上のことなど普段と違うことがありましたら、地区事務局もしくは採取施設までご連絡ください。

あなたご自身でご記入ください。

●日本骨髄バンク ()事務局

電話番号： FAX：

※地区事務局は、平日(月～金曜日)の9:00～17:30までです。

夜間・休日は留守番電話対応になります。

※夜間・休日に連絡を要する場合は採取施設へご連絡ください。

●コーディネーター(氏名：)

※コーディネーターへの連絡は、地区事務局へ電話(日中)またはFAXで
お願いします。折り返しコーディネーターからご連絡します。

●採取施設情報

施設名：

住所：

電話番号：

●担当医師情報

担当医師名： 所属：

連絡先：

②担当事務局・採取施設からあなたへの連絡について

患者さん側の都合などで、至急ご連絡しなければならない場合があります。いつでも連絡がとれる方法をご検討いただき、地区事務局またはコーディネーターにお知らせください。

(例)あなたと連絡がつかない場合に連絡を取っていただける方、
伝言を残してよいか、など。 7

4. 採取・移植施設以外の 医療関係者の方へ

【造血幹細胞移植とは】

造血幹細胞移植とは、機能の低下した患者の造血機能を、前処置（抗がん剤投与、全身放射線照射など）により治療した後、HLA型の適合したドナーの正常な造血幹細胞を移植し、造血機能を回復させる治療法です。近年、造血幹細胞は骨髄のみならず、末梢血中にも存在することが明らかとなりました。

病気によっては抗がん剤や免疫抑制剤投薬などで治癒可能となりましたが、造血幹細胞移植でしか治癒が望めない患者がいます。主な病気としては白血病、悪性リンパ腫、重症再生不良性貧血、免疫不全症、一部の先天性代謝異常症などがあります。

造血幹細胞移植には、骨髄移植、末梢血幹細胞移植、さい帯血移植がありますが、ここでは骨髄移植と末梢血幹細胞移植について取り扱います。

【骨髄移植とは】

骨髄移植(BMTともいう)とは、ドナーの皮膚から腸骨に専用の針を刺し、注射器で骨髄から吸引した骨髄液を輸注用のバッグに集め、それを数時間かけて患者の静脈へ点滴で注入する治療法です。

【末梢血幹細胞移植とは】

末梢血幹細胞移植(PBSCTともいう)とは、ドナーの末梢血から幹細胞を採取して、骨髄移植と同様の方法で患者に移植する治療法です。

末梢血幹細胞ドナーはより多くの造血幹細胞を採取するために、顆粒球コロニー刺激因子(以下、G-CSF)を4～6日間皮下注射されます。4または5日目に、ドナーの末梢血中に流れている造血幹細胞を血液成分分離装置によって採取します。なお細胞数が十分量採取できなかった場合は、翌日に再度採取を行います。

※本手帳は、血縁者間・非血縁者間における骨髄・末梢血幹細胞提供が決定したドナーの方へ配布しているものです。ドナーが本手帳を提示することで、いつ、どこの医療機関を受診しても、骨髄もしくは末梢血幹細胞提供者であることを医療関係者の方々に把握していただけるよう、提供についての記録が記載されています。ドナーの方へのご理解と診療にお役立てください。

5. 骨髄提供スケジュール表

行程	日時	備考
術前健診日	年 月 日() 時～	
自己血採血 (1回目)	年 月 日() 時～	
自己血採血 (2回目)	年 月 日() 時～	
入院日	年 月 日() 時～	
骨髄採取日	年 月 日() 時～	
退院予定日	年 月 日() 時～	
術後健診日	年 月 日() 時～	

あなたご自身でご記入ください。

6. 末梢血幹細胞提供スケジュール表

行程	日時	備考
術前健診日	年 月 日() 時~	
G-CSF注射1日目	年 月 日() ① 時~ / ② 時~	
G-CSF注射2日目	年 月 日() ① 時~ / ② 時~	
G-CSF注射3日目	年 月 日() ① 時~ / ② 時~	
G-CSF注射4日目 末梢血幹細胞採取 有・無	年 月 日() 時~ 時~	
G-CSF注射5日目 末梢血幹細胞採取 有・無	年 月 日() 時~ 時~	
G-CSF注射6日目 末梢血幹細胞採取 有・無	年 月 日() 時~ 時~	
術後健診日	年 月 日() 時~	

あなたご自身でご記入ください。

7. 骨髄・末梢血幹細胞採取前に お願いしたいこと

血縁・非血縁者間
骨髄ドナー・末梢血幹細胞ドナー共通



日常生活・健康に関するお願い

●採取前の日常生活

採取施設からの様々な注意事項は、お守りくださいますようお願いいたします。

☆過去の病気・気になる症状は早めに申告を

コーディネート中に、申告していなかった過去の病気や現在治療中の病気、症状などを思い出したら早めに採取施設へご連絡ください。特に採取の約1週間前には患者さんの前処置が開始されますので、少しでも異常を感じた際には念のためにご連絡ください(非血縁ドナーの方は、地区事務局でもご連絡をお受けしています)。

また、職場の健康診断などでなんらかの異常を指摘された場合もご連絡ください。

☆病気・カゼにご注意を

体調に異常がありましたら、早めにご連絡ください。

☆睡眠不足・過労のないように

今後の健康診断、自己血採血(骨髄提供の場合)・骨髄採取、末梢血幹細胞採取に備えて、十分ご注意ください。

☆食事・飲酒・喫煙について

飲酒により肝機能に影響がでることもあります。暴飲暴食は避けるようお願いいたします。
採取前は、なるべく喫煙をお控えください。



☆過度のダイエット等はお控えください。

これから骨髄・末梢血幹細胞を採取することにより、お体に少なからずご負担をかけることとなります。また、検査値に異常が出て、他の病気と判別がつかなくなることもあります。

☆妊娠・授乳中について

妊娠・授乳中は、ドナーの健康・安全のため採取ができません。採取終了までは妊娠を避けてください(採取4週間前からはピルを服用しないでください)。

☆献血はお控えください



骨髄ドナーは自己血採血(ご自身に輸血するための保存血液の採血)や骨髄採取があります。
また、末梢血幹細胞ドナーは末梢血幹細胞採取がありますので、日赤血液センターでの献血はしないでください。

退院後の検査などで異常のないことが確認されましたら、提供から6カ月後から献血は可能となります。

☆自己血貯血直前の抜歯はお控えください

抜歯により血液中に細菌が混入し、自己血貯血ができなくなりますので、自己血貯血直前の抜歯はお控えください。
その他、下痢、発熱等で自己血貯血ができなくなる場合がありますので、体調に変化がありましたら、担当医にご相談ください。

☆スポーツについて

入院の2週間前からは、筋肉運動(トレーニングや筋肉に負担のかかる作業など)は行わないでください(採取前健康診断の約1週間前からも同様をお願いします)。

運動によって血液検査の結果に異常値が出る場合があります、運動による異常値なのか、病的なものかの判断が難しく、患者が移植の準備を始めているときは、緊急事態となりますのでご注意ください。どうしても運動を避けられない場合は、採取前健康診断の際に医師に相談するようにしてください。

☆治療を受ける・薬を飲む前にご相談を

薬によっては、検査値に影響が出るものがあります。

他の病院で処方された薬を服用する時はもちろん、漢方薬や市販の薬を飲む場合も、事前に必ず採取施設へご相談ください(非血縁ドナーの方は、地区事務局でもご連絡をお受けしています)。

☆ネイルアートについて

採取時、ドナーの健康状態を確認するために、爪の色を観察することがあります。ネイルアート(マニキュア・付け爪など)は、採取時は避けていただくようお願いいたします。

非血縁ドナーの方へ

入院中に、コーディネーターがお見舞いにお伺いし、お体の様子などのアンケートを実施させていただきますのでご協力ください。

●入院中の生活

入院時にご用意いただくもの・入院日時・手続きなどは、施設によって異なります。

☆入院中の過ごし方について(お願い)

入院中は、採取施設の指示に従ってください。

近年、「入院中のドナーが採取施設のルールを守らず、トラブルとなった事例」が報告されました。

《トラブルの一例》

- ・安静の指示を守らず、無断で外出した。
- ・病室で喫煙した。
- ・病室に複数の友人を招いて騒いだ。
- ・病院スタッフや他の入院患者さんに迷惑行為を行った。
など

※もちろん、これらの事例はごく少数であり、ほとんどのドナーの皆様には、ルールをお守りいただいています。

入院中は、病院のルールやマナーおよび採取医師などの指示をお守りいただきますようお願いいたします。

入院に関してご不明な点やお困りの点などありましたら、採取施設にご相談ください。

非血縁ドナーの方は、コーディネーター・地区事務局でもご相談をお受けしています。

8. 骨髄提供について

血縁・非血縁ドナー共通



(1) 自己血採血について

下記の事項の他、採取施設からの注意事項をお守りください。

①採血前の注意

- ・採血前夜は、飲酒を控え、十分に睡眠をおとりください。

②採血当日の注意

- ・朝食を抜かないようにしてください。

※貧血症状などによる事故や、交通事故防止のため、バイク等での来院はお控えください。

③採血後の注意

- ・採取部位はもまずに圧迫します。
- ・脱水症状を防ぐため、採血後、水分を補給してください。
- ・めまい・ふらつきがあったら、横になり、頭よりも足を高くして様子をみます。
(病院内の場合は、採血担当医に連絡をとっていただくよう近くの病院スタッフに声をかけてください。)
- ・何らかの症状が続く場合は、病院外からであっても採血担当医師にご連絡ください。
- ・採取後、気分不快や体調に異常がなくても、採取当日は安静にし、運動は控え労働には十分注意してください。

- ・内出血・腫れ・痛みなど心配なことがある場合は、採取担当医師へご連絡ください。非血縁ドナーの方は、地区事務局でもご相談をお受けしています。
- ・鉄分の多い食事(レバー・大豆・卵黄・ひじき・ほうれん草など)を心がけてください。
- ・採血当日は、激しい運動や長い入浴は避けてください。(清潔なお湯でシャワーを浴びることは構いません。ぬれた絆創膏は、はがしてください。)

☆鉄剤を処方された場合

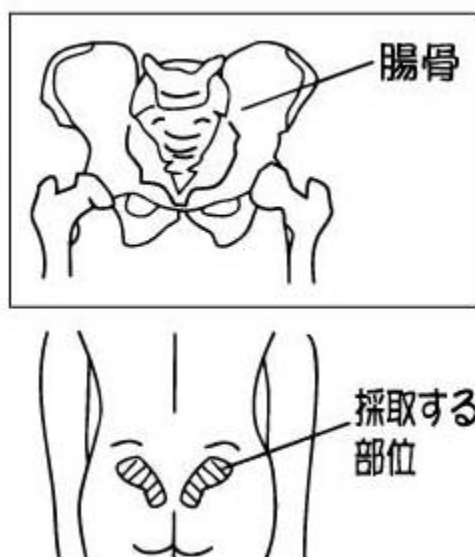
- ・医師の指示に従って服用してください。
- ・鉄剤を服用すると、便が黒くなる場合がありますが、心配はありません。

ただし、食欲不振・吐き気等が続くようでしたら、採取担当医師にご連絡ください。非血縁ドナーの方は、地区事務局にご連絡いただいても結構です。



(2) 骨髄採取の方法

- 骨髄採取は原則、全身麻酔下で行います。麻酔の準備が行われた後、人工呼吸器の管(気管チューブ)が喉から挿入されます。尿道に細い管(カテーテル)を差し込んで尿を外へ導くこともあります。
- 骨髄液は腸骨(骨盤骨)からうつぶせの状態ですべて採取します。骨髄穿刺針(ボールペンの芯くらいの太さ)を皮膚の上から刺して、1回に数ml程度の骨髄液を注射器で吸引し採取します。



- 採取量はドナーの体に負担にならない範囲で設定されます。骨髄採取によって血液をつくる力は落ちることはありません。
- 採取にかかる時間は、手術室に入ってから出てくるまで2~4時間位で、そのうち麻酔をかけている時間は1~3時間位です。

(3) 骨髄採取(麻酔)により 起こり得る合併症

● 骨髄採取、麻酔に伴う合併症

一過性のもの	血圧低下 不整脈 など
採取終了後に 生じたもの	後腹膜や左腸腰部位に血腫を生じた例 C型肝炎発症
長期的なもの	採取部位、臀部(お尻の部分)などに痛みや しびれ
その他	悪性高熱症 前歯損傷 骨髄穿刺針の破損 尿道損傷 血栓症 喉頭肉芽腫 肺脂肪塞栓 症の疑い

「ドナーのためのハンドブック」(日本骨髄バンク)より

※詳細については以下でご覧いただくことが可能です。

- ・ 日本骨髄バンクホームページ
<https://www.jmdp.or.jp>
- ・ 日本造血細胞移植学会ホームページ
<https://www.jshct.com>

(4) 骨髄採取後について

① 骨髄採取後の注意

- ・日常生活、職場復帰に関しては、採取担当医の指示を守ってください。
- ・シャワー、入浴についても採取担当医の注意をお守りください。
- ・穿刺部位の消毒など傷口を清潔に保つことは大切です。骨髄採取後、1週間程度は傷口を清潔に保ってください。
- ・採取後、1週間程度は過度の運動(マラソン、水泳など)は避けてください。

② 骨髄提供後について

血縁ドナーの方へ

- ・日本造血細胞移植学会では、すべての血縁ドナーを事前登録し、健康被害を把握するために、「血縁造血幹細胞ドナーフォローアップ調査」を行っています。
- ・骨髄提供後も、健康診断等で医療機関を受診する際にはこの手帳を提示し、骨髄提供者であることをお伝えください。骨髄提供との関連が疑われるような健康上の問題が起きた場合は、採取施設へご連絡ください(その他の施設にご相談いただいても結構です)。

⇒P.36「11.ドナー補償のための団体傷害保険について」
(血縁ドナーの方へ)もお読みください

非血縁ドナーの方へ

電話フォローアップ

- ・退院後は毎週、コーディネーターが電話でお身体の具合を伺います。
- ・お電話は、お聞きする項目が「問題なし」となり、日常生活に復帰されるまで続けさせていただきます。
- ・異常がありましたら、コーディネーター（もしくは地区事務局・採取施設）に早めにお知らせください。

採取後健康診断

- ・骨髄採取の2～3週間後に採取後健康診断を受けていただきます。

アンケートによるフォローアップ

- ・骨髄採取から3カ月後にアンケート調査用紙をお送りしますので、ご協力をお願いします。
- ・提供後も、健康診断等で医療機関を受診する際にはこの手帳を提示し、骨髄提供者であることをお伝えください。骨髄提供との関連が疑われるような健康上の問題が起きた場合は、地区事務局へご連絡ください。

⇒P.37「11.ドナー補償のための団体傷害保険について」
(非血縁ドナーの方へ)もお読みください

9. 末梢血幹細胞提供について

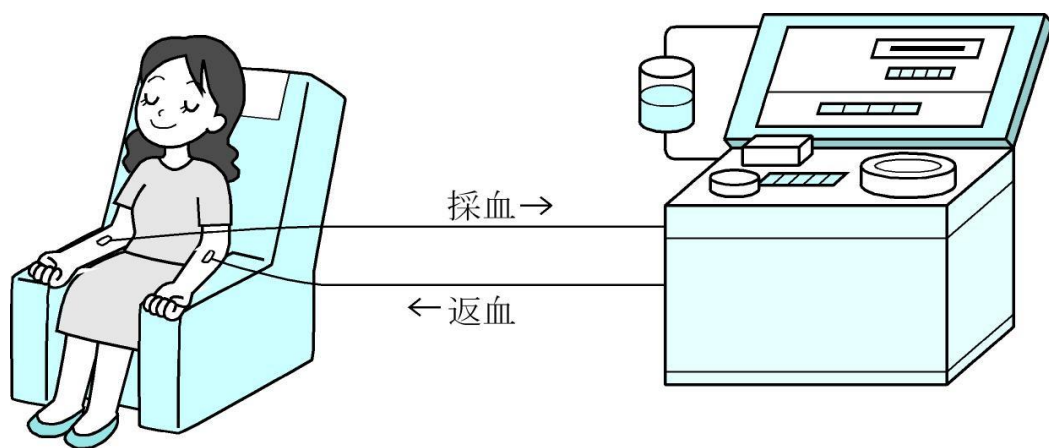
血縁・非血縁ドナー共通



(1) 末梢血幹細胞採取の方法

- 末梢血(体を流れる血液)から十分量の造血幹細胞を採取するために、G-CSF(白血球を増やす薬)を1日あたりフィルグラスチム(グランなど)の場合 $400 \mu\text{g}/\text{m}^2$ 、またはレノグラスチム(ノイトロジンなど)の場合 $10 \mu\text{g}/\text{kg}$ を4~6日間皮下注射します。
- G-CSFの注射開始から4または5日目に末梢血幹細胞を採取します(施設によって異なります)。採取当日、G-CSFを皮下注射して約3~4時間後に末梢血幹細胞採取を行います。
- 採血用と返血用に、左右の腕(片腕の場合もあります)のなるべく太い静脈に注射針を刺します。採取当日、腕に太い血管を確保できなかった場合、代わりにそけい部(足の付け根の部分)の血管にカテーテルと呼ばれる柔らかいチューブを入れることがあります(大腿静脈アクセスという)。まれに出血や感染などが報告されていますが、このような場合には速やかに適切な処置を行います。

- 血球成分分離装置を用いて末梢血幹細胞を採取します（およそ4時間程度）。採取中は、両腕とも動かさせません。
- 採取1回目（G-CSF注射4または5日目）に十分量の末梢血幹細胞が採取できれば、2回目の採取はありません。お体の状態に問題のないことが確認された後、退院となります。採取1回目の末梢血幹細胞の量が不十分の場合は、翌日再度G-CSFを皮下注射し、約3～4時間後に2回目の採取を行います。



(2) 顆粒球コロニー刺激因子 (G-CSF) の注射について

① G-CSFの注射により起こり得る副作用について

投与中／ 投与後 間もない 時期の 副作用	一過性の もの	腰痛 胸痛 骨痛 背部痛 関節痛 筋肉痛 頭痛* 血圧低下 発疹 紅斑 悪心 嘔吐 発熱 倦怠感 食欲不振 動悸
	G-CSFの注射に 関連すると考え られる重大な 副作用	肝機能異常 尿酸値上昇 腎機能異常(血清クレアチニン値上昇)
長期的な 副作用	健常人に対する長期(数十年以上)の安全性については確認されていないことから科学的データを収集中です。 血縁ドナーが、末梢血幹細胞提供後約1年後に急性骨髄性白血病を発症し死亡した事例が報告されましたが(2003年2月)、その後のわが国および海外の調査では、G-CSFの注射で白血病のリスクが増大する懸念は否定できるとされています。	

「同種末梢血幹細胞移植のための健常人ドナーからの末梢血幹細胞動員・採取に関するガイドライン」(日本造血細胞移植学会、日本輸血・細胞治療学会)より

* 一過性の副作用による痛みは鎮痛剤で消失します。

※詳細については以下でご覧いただくことが可能です。

- ・ 日本造血細胞移植学会ホームページ
<https://www.jshct.com>

②通院でのG-CSFの注射実施期間中の注意

G-CSFの注射実施期間中は以下のような副作用が発生する可能性がありますので、ご自身の健康状態に十分注意してください。

- | | | | |
|---------|-------|--------|-------|
| ○発熱 | ○発疹 | ○動悸 | ○胸の痛み |
| ○下肢のむくみ | ○腰痛 | ○骨痛 | ○関節痛 |
| ○頭痛 | ○食欲不振 | ○悪心・嘔吐 | ○不眠 |
| ○倦怠感 | ○ふらつき | | |

重篤な副作用が起きることはまれですが、通院によるG-CSFの注射実施期間中は本手帳を携帯し、以下のような症状がないかチェックしてください。万一、あてはまる症状が現れた場合は、採取施設へご連絡ください。緊急を要する場合は救急医療をお受けください。その際、ドナーご本人またはご家族から医療関係者へ本手帳を提示し、G-CSFの注射を受けていることをお伝えください。

症 状	1日目	2日目	3日目	4日目
・呼吸が苦しい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・胸がはげしく痛む	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・39℃以上の発熱がある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・全身に発疹がある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・はげしいめまいやふらつきがある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・通常の生活ができないくらい強い疲労感がある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・注射した場所が強く痛み、はれている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・鎮痛剤を服用しても眠れないくらいの痛み(腰痛、骨痛、頭痛、関節痛など)がある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・気分が悪く、まったく食事がとれない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・1日で2回以上嘔吐した	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

(3) 末梢血幹細胞採取について

①採取前の注意

- ・採取前夜は、飲酒を控え、十分に睡眠をおとりください。
- ・採取当日は、朝食を抜かないようにしてください(血液中の脂肪分の増加を防ぐため、採取前日夜から採取当日朝まで脂肪分の多い食事は控えてください)。
- ・交通事故防止のため、バイク等での来院はお控えください。
- ・緊張・不安や強度の空腹感・衣類のしめつけがある場合には、採取時に気分が悪くなることがあります。
- ・上着・下着ともに、温度調節や脱ぎ着がしやすく、ゆったりとした服装でお越しください。きつめの服、下着、ベルト、コルセットや補正下着、ボディースーツなどは避けてください。
- ・採取中はおよそ4時間ほど機器に固定されるため、採取直前にはお手洗いを済ませてください。

②採取中に起こり得る症状

採取中に起こり得る症状	全身倦怠感 <u>手足のしびれ・口の周りのしびれ*</u> 血管迷走神経反射(VVR)に伴うめまい・吐き気 嘔吐・血圧低下
-------------	---

* 採取した血液が凝固するのを防ぐために抗凝固剤が加えられます。手足のしびれ・口の周りのしびれは、この薬剤の影響により現れます。この様な症状が現れた場合は、すぐに採取担当医もしくは看護師にお知らせください。カルシウム剤を使用することで改善します。



(4) 末梢血幹細胞採取後について

①採取後間もない時期に起こり得る症状

採取後に起こり得る症状

針を刺した部位の腫れ

血小板減少(出血傾向がみられることがあります)*

* 血小板減少は、末梢血幹細胞採取の際に血小板も採取されるために起こります。採取終了後、血液検査を実施し血小板数が基準以下の場合、採取した末梢血幹細胞の中から血小板成分を分離して点滴注射で返血することがあります。

②末梢血幹細胞採取後間もない時期の注意

- ・採取部位は、もまずに圧迫します。詳しくは採取担当医の指示に従ってください。
- ・末梢血幹細胞採取直後は重い荷物を持つたり、力を入れすぎないようにご注意ください。
- ・針を刺したところや周りが青くなったり腫れたりすることがあります。通常は自然に、1～3週間で治りますが、気になる場合は採取担当医にご相談ください。
- ・日常生活、職場復帰に関しては、採取担当医の指示を守ってください。
- ・脱水症状を防ぐため、採取後は十分に水分を補給してください。食事をきちんととり、早めに休息をとりましょう(血液中の脂肪分の増加を防ぐため、採取前日夜から採取当日朝まで脂肪分の多い食事は控えてください)。
- ・末梢血幹細胞採取直後は喫煙は避けてください。
- ・シャワー、入浴についても採取担当医の注意をお守りください。
- ・末梢血幹細胞採取後、1週間程度は過度の運動(マラソン、水泳など)は避けてください。
- ・痛みが続いたり、気分が悪くなられた方は早めに採取担当医にお知らせください。

③末梢血幹細胞採取後1ヵ月間の注意

末梢血幹細胞採取から約1ヵ月間は以下のような副作用が起きる可能性がありますので、ご自身の健康管理に十分注意してください。

- 頭痛
- 胸の痛み
- 出血傾向
- 下肢のむくみ
- 発熱
- 貧血症状(ふらつき・めまい)

以下のような症状がないかチェックしてください。当てはまる症状がみられる場合は採取施設へご連絡ください(非血縁ドナーの方は、地区事務局でもご連絡をお受けしています)。緊急を要する場合は救急医療をお受けください。その際、ドナーご本人またはご家族から医療関係者へ本手帳を提示し、末梢血幹細胞採取を行ったことをお伝えください。

症 状	採取後 1週目	採取後 2週目	採取後 3週目	採取後 4週目
・鎮痛剤を服用しても改善しないくらいはげしい頭痛がある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・胸がはげしく痛む	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・出血しやすく、血が止まりにくい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・風邪症状等はないが、39℃以上の発熱がある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・はげしいめまいやふらつきがある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・針を刺した場所が強く痛み、はれている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・気分が悪く、まったく食事がとれない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

④末梢血幹細胞提供後について

血縁ドナーの方へ

- ・日本造血細胞移植学会では、すべての血縁ドナーを事前登録し、健康被害を把握するために、「血縁造血幹細胞ドナーフォローアップ調査」を行っています。
- ・末梢血幹細胞提供後も、健康診断等で医療機関を受診する際にはこの手帳を提示し、末梢血幹細胞提供者であることをお伝えください。末梢血幹細胞提供との関連が疑われるような健康上の問題が起きた場合は、採取施設へご連絡ください（その他の施設にご相談いただいても結構です）。

⇒P.36「11.ドナー補償のための団体傷害保険について」
（血縁ドナーの方へ）もお読みください

非血縁ドナーの方へ

電話フォローアップ

- ・退院後は毎週、コーディネーターが電話でお身体の具合を伺います。
- ・お電話は、お聞きする項目が「問題なし」となり、日常生活に復帰されるまで続けさせていただきます。
- ・異常がありましたら、地区事務局または採取施設に早めにお知らせください。

採取後健康診断

- ・末梢血幹細胞採取の1～4週間後に採取後健康診断を受けていただきます。

アンケートによるフォローアップ

- ・末梢血幹細胞採取から3カ月後、その後は1年に1度、5年間アンケート調査用紙をお送りします。これは、G-CSFによる健康被害の有無を把握するためです。ご協力をお願いします。
- ・末梢血幹細胞提供後も、健康診断等で医療機関を受診する際にはこの手帳を提示し、末梢血幹細胞提供者であることをお伝えください。末梢血幹細胞提供との関連が疑われるような健康上の問題が起きた場合は、地区事務局へご連絡ください。

⇒P.37「11.ドナー補償のための団体傷害保険について」
(非血縁ドナーの方へ)もお読みください

10. 患者さんへのお手紙について

ドナーの方から日本骨髄バンクを通して患者さんに手紙を出すことができます。ご希望の際は地区事務局またはコーディネーターにお申し出ください。

ドナーの方と患者さん双方のプライバシー保護と、骨髄バンク事業の公正さを保つため、下記の点にご留意くださいますようお願いいたします。

- ①ドナーの方の氏名・住所・年齢は、手紙の文中に書かないでください。性別・年代(20歳代等)・地方(関東、東海等)はお書きいただいても結構です。
- ②病院名・所在地も書かないでください。
- ③病状や病名を尋ねる内容はご遠慮願います。
- ④金銭・物品のお取次ぎはできません。
- ⑤手紙の取次ぎは採取後1年以内に2回までです。
- ⑥患者さんには移植終了後にお渡しします。
- ⑦患者さんにお渡しする前に、事務局にて手紙を開封し、内容を確認させていただきますのでご了承ください(事情により、患者さんにお渡しできず返却させていただく場合があります)。
- ⑧患者さんから手紙が届くことは、病状等の事情により必ずしも期待できないことをどうぞご理解ください。



11. ドナー補償のための 団体傷害保険について

骨髄・末梢血幹細胞ドナー共通



血縁ドナーの方へ

日本造血細胞移植学会および日本造血細胞移植データセンターが共同で実施する「造血細胞移植医療の全国調査」における、「血縁造血幹細胞ドナーフォローアップ調査」へ事前登録されているドナーの方は、ドナー団体傷害保険に加入していただくことが可能です。

ドナーが骨髄または末梢血幹細胞を提供する目的で、自宅を出てから帰宅するまでの傷害を補償する保険です。

提供により万ードナーに事故が起きた場合には、日本造血細胞移植学会が加入している傷害保険から最高1億円を限度として保険金が支払われます（施設によって異なりますが、このための掛け金は、あなたを含むご家族の負担になります）。

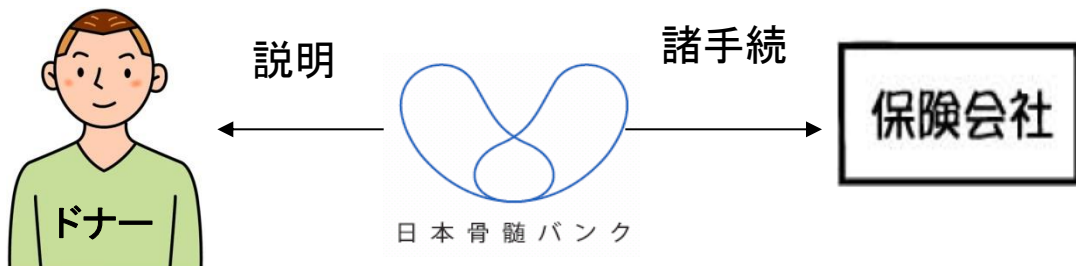
この保険への加入について詳細は担当医にお訊ねください。



非血縁ドナーの方へ

骨髄バンクを介して骨髄または末梢血幹細胞を提供されるドナーの方は、提供により万ードナーに事故が起きた場合には、日本骨髄バンクが加入している骨髄バンク団体傷害保険から最高1億円を限度として保険金が支払われます。

ドナーが骨髄または末梢血幹細胞を提供する目的で、自宅を出てから帰宅するまでの傷害を補償する保険です。このための掛け金をドナーが負担することはありません。詳しくは「ドナーのためのハンドブック」をご覧ください。



MEMO

MEMO

MEMO

2010年10月1日	初版第1刷発行
2012年9月1日	第2版第1刷発行
2015年7月1日	第2版第2刷発行
2018年5月1日	第3版第1刷発行
2018年10月1日	第3版第2刷発行
2020年8月1日	第4版第1刷発行

編集者：一般社団法人	日本造血細胞移植学会
公益財団法人	日本骨髓バンク
発行者：一般社団法人	日本造血細胞移植学会
公益財団法人	日本骨髓バンク